

白老町町内会連合会の「協働のまちづくり」のこれから

地域まちづくり協議会の展開について

白老町町内会連合会が発足してから34年が経過しており、発足当時の町連合の活動から社会環境は大きく変化しており、昭和55年の24000人をピークに人口減少が起こり平成26年4月では18600人と5400人ほど減少している、また少子高齢化社会と言われ白老に於いても65歳以上の高齢者が38%弱を占めており、労働人口の減少と相まって、町内会役員の成り手がない、単位町内会の各種行事への参加者が少ない等々の影響が出てきている。特に小中学生は現在全町で1080名であり、従来町内会の中心であった子ども会行事が、急速に減少しているのが現状である。町財政の悪化は町内会運営にも顕著に現われており従来は各町内会で実施されていた敬老会は現在は10数町内会が実施しているのみであり、発足当時から開催されている「行政懇談会・まちづくり懇談会」での要望に関する実施率は財政難を理由に極めて低いものとなり、インフラ関係を含め住民の生活に少なからず影響を及ぼしている。

白老町の「協働のまちづくり」の歴史は既に20数年になり、発足当時は各自治体から注目されていたが、現在は当時の活気が失われている感がある。言葉のみがひとり歩きをしており理念・認識・行動が行政職員はもとより町民にも「協働のまちづくり」への取組が消極的になってきている。

白老町自治基本条例、第5次白老町総合計画に示されている「住みよい地域づくり」の実現に向けた取り組みを町連合としても積極的に推進していく。この指針に沿って町連合が以前より掲げている「地域まちづくり協議会」を行政と共に展開していく。

地域まちづくり協議会とは エリア型コミュニティ

- ★ 役割
 - ・ 財政的に厳しい現状で公共サービスも思うようにならない中で、「協働」の精神を生かし、行政と町民の保管体制の確立が求められる。
 - ・ 地域固有の特性、問題点や課題を明らかにして、町民の主体的な創意工夫のもと、地域に必要で最適な活動を、自らが地域の担い手として実践する自主的なものとする。
 - ・ 行政から依頼されたからではなく、主体的に行動する必要がある。

- ★ 内容
 - ・ 地域課題の掘り起こし
 - ・ 地域課題の優先順位の協議
 - ・ 解決のための役割分担
 - ・ かかる費用に関する協議
 - ・ 地区町内会連合会が中心となって各種の団体が参画する組織
 - ・ 解決に向けた施策を実施提案する組織

- ★ 範囲
 - ・ 当面現行の3地区とする
社台・白老・石山
萩野・北吉原
竹浦・虎杖浜
 - ・ 現行の「まちづくり懇談会」実施地区において日常的な活動を目指す組織

白老町町内会連合会の「協働のまちづくり」のこれから

- ★ 具体的事業
 - ・ 交通安全に関する事業
 - ・ スポーツ・レクリエーションに関する事業
 - ・ 子どもの健全育成や非行防止に関する事業
 - ・ ゴミの減量・3Rの推進に関する事業
 - ・ 健康づくり運動に関する事業
 - ・ 環境美化に関する事業
 - ・ 防犯・防災に関する事業
 - ・ 高齢者福祉に関する事業
 - ・ 男女共同参画の推進に関する事業
 - ・ 地域まちづくり活動に関する事業
 - ・ 研修研究活動に関する事業
 - ・ 自主防災組織に関する事業
 - ・ その他生活向上に関連する事業

- ★ 行政との連携
 - ・ 生活環境課
 - ・ 健康福祉課
 - ・ 総務課
 - ・ 教育委員会

- ★ 他団体との連携
 - ・ 社会福祉協議会
 - ・ 民生児童委員会
 - ・ 各種町民活動団体

★ 活動の留意点

- ※ それぞれの団体は、現組織を生かし、主体的に活動する
- ※ 活動団体は活動資金として、自主的財源の確保に努める
(町の補助金の減額を念頭に)
- ※ 交流会の開催等により、団体活動の発表機会を多くする
- ※ 多くの町民の声が反映される活動とすると共に情報発信に努める

- ★ 地域まちづくり協議会は平成26年度から行政が始めた「地域担当職員制度」の活動と協働し、今後展開をしていく。

- ★ 地域まちづくり協議会は地域の町内会が積極的に連携し、地域振興の主体となる。

- ★ 町内会を含む町民活動団体はそれぞれの分野に於いて、地域の課題や施策を主体的に担い情報を開示して組織連携で地域振興の一翼を担う。

住んでいて良かった、住民が主体のまちづくり